
ものつくり大学大学院

ものつくり学研究科 ものつくり学専攻

2026（令和8）年度

大学院入試

学生募集要項

入試課

〒361-0038 埼玉県行田市前谷333番地

TEL: 048-564-3816

FAX: 048-564-3201

E-MAIL: exam@iot.ac.jp

URL: <https://www.iot.ac.jp/>

ものづくり学研究科アドミッション・ポリシー

ものづくり学研究科では、独創的かつ自発的に高度なものづくりを実践し、社会に貢献するマスター・テクノロジストを育成します。マスター・テクノロジストを目指して、高度な専門的知識および技能技術を探究するとともに、複合的で幅広い視点を備え、高度なものづくりを通して世界で活躍する強い意欲を持つ者の入学を期待しています。

【求める学生像】

1. 本研究科で学ぶ強い意思を持ち、高度なものづくりに積極的に取り組める者
2. 自ら課題を設定し分析評価する姿勢を持ち、実験・研究等に真摯に取り組める者
3. 仲間と協力し、学術的論理を持って創意工夫や問題解決に努められる者
4. 最新の科学技術や社会経済に関心を持ち、グローバルな視点で多様性の受容に努められる者
5. 価値観の異なる相手とも互いの理解を深めながら学び、最善の帰結に努められる者

【入学までに身につけておくべき能力】

- ・ 積極的に実験・研究等に取り組む強い意欲や、探究心を持って高次のものづくりを学ぶ自主性を身につけていること（意欲、探究心、自主性）
- ・ 高い知的好奇心を持ち、理数系の基礎的理論や統計処理に関する科学的基礎知識およびコンピュータリテラシーを身につけていること（知的好奇心、科学的基礎知識、コンピュータリテラシー）
- ・ マスター・テクノロジストの素養として必要な一定の教養や倫理観に加え、論理的に考察する能力を身につけていること（教養、倫理観、論理性）
- ・ 国際社会や多文化を受容し、互いに理解して協調・協力するために必要な語学的素養やプレゼンテーション能力を身につけていること（文化受容性、語学的素養、プレゼンテーション能力）

目 次

大学院と入試の概要	1
事前相談	2
入学者選抜試験	4
受験についての注意	6
入学手続等について	8
試験会場案内図	9
専任教員及び研究分野一覧	10
授業科目一覧	11

本学所定用紙一式

【事前相談】

- 志願理由書（大学院入試用）
- 学位プロジェクト計画（大学院入試用）
- 出願資格審査申請書（大学院入試用）

【出 願】

- 願書（大学院入試用、入学志願票）
- 経歴書、実績・業績報告書（大学院入試用）

※出願のための所定用紙については、事前相談終了後に該当者に郵送いたします。

大学院と入試の概要

大学院の概要

ものづくり学研究科は「もの」と「ものづくり」の在り方を総合的に探究する大学院です。

ものづくり学とは、現在のものづくりが抱える様々な問題を真摯に捉え、真に価値ある「もの」と「ものづくり」のための理念、方策と方法を探究し、その成果を実践する新しい分野です。ものづくりを、これまでのように産業や技術としてのみ捉えるのではなく、人間の社会活動や文化活動としても位置付けるとき、「何をつくるか」「どのようにつくるか」の意味を様々な側面から検討しなければならず、更には「なぜつくるのか」にも答える必要があります。したがって、ものづくり学は自然科学・工学だけでなく、社会科学や人文科学の領域、創作や伝統技能などにも広がる総合的な分野です。

ものづくり学研究科はものづくり学専攻のみから構成され、このようなものづくり学に基づく講義や演習・実習を行うとともに、主として実務的な課題によるプロジェクト実習を通して、確固とした「もの観・ものづくり観」と、ものづくりに関わる実務実践能力を育成します。

また、ものづくり学専攻では学生ひとりひとりの自主性を尊重し、各自の希望や経歴を生かした論文研究や作品制作、ものづくりに関する様々なプロジェクト（修士学位プロジェクト）の成果によって、修士学位の審査を受けることができます。

卒業後は、企業における技術部門や管理部門におけるリーダーや、公的機関や民間機関におけるものづくりコーディネーターやコンサルタントなどで活躍する他、教育・研究や技能技術の継承・発展に貢献できるものと考えています。

高度な専門的知識および技能技術を探究するとともに、複合的で幅広い視点を備え、高度なものづくりを通して世界で活躍する強い意欲を持つ者の入学を期待しています。

入試の概要

入試は、AからD日程の年4回実施します。

令和8年4月入学を原則としますが、ものづくり大学大学院では1年を4学期に分けるクォータ制を導入しており、希望により各学期からの入学を認める場合があります。希望する場合は、あらかじめ入試課まで相談してください。

募集定員

日程	研究科	専攻	課程	募集定員
A日程	ものづくり学	ものづくり学	修士	20名
B日程				
C日程				
D日程				

出願資格

①～⑧のいずれかに該当し、かつ事前相談の結果、本学が出願を許可した者。

(日本国籍を有しない者においては、①～⑦のいずれかに該当し、かつ⑨、⑩のすべてに該当する者)

- ① 日本の大学を卒業した者又は令和8年3月までに卒業見込みの者。
- ② 大学改革支援・学位授与機構により学士の学位を授与された者又は令和8年3月までに授与される見込みの者。
- ③ 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者又は令和8年3月までに修了見込みの者。
- ④ 外国の学校が行う通信教育を我が国において履修することにより当該国の16年の課程を修了した者又は令和8年3月までに修了見込みの者。
- ⑤ 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置づけら

れた教育施設であって、文部科学省が別に指定するものの当該課程を修了した者又は令和8年3月までに修了見込みの者。

※文部科学省大臣指定外国大学日本校

テンブル大学ジャパンキャンパス

(教養学部、メディア・コミュニケーション学部、芸術・建築学部、観光ビジネス学部)

【平成21年8月31日付「観光ビジネス学部」を廃止】【令和元年6月20日付 名称変更(旧 テンブル大学ジャパン)】

天津中医薬大学中薬学院日本校(中薬課程)

北京語言大学東京校(中国語学部中国語学科)

上海大学東京校(中国語学部中国語学科)

レイクランド大学ジャパン・キャンパス(学士号課程)

暨南大学日本学院(中国語学部・中国語教育学部)

アリゾナ州立大学サンダーバードグローバル経営大学院日本校

(グローバルマネジメント学士課程、理学士課程)

深圳大学東京学院(中国語・ビジネス中国語学科)

- ⑥ 指定された専修学校の専門課程(文部科学大臣指定専修学校専門課程)を修了した者又は、令和8年3月までに修了見込みの者(施行規則第155条第1項第5号)。
- ⑦ 文部科学大臣の指定した者(昭和28年文部省告示第5号)。
- ⑧ 本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22歳に達した者。
- ⑨ 大学において教育を受ける目的を持って入国した者で、出入国管理及び難民認定法において大学入学に支障のない在留資格を有する者。
- ⑩ 公益財団法人日本国際教育支援協会が実施する「日本語能力試験(N2)」の合格者又は独立行政法人日本学生支援機構が実施する「日本留学試験(日本語)」で200点以上(記述を除く)のいずれかを取得している者。

事前相談

本学大学院では、修士学位プロジェクトのテーマを学生自身が選定することを基本としているため入学希望者には志願理由と共に、事前に学位プロジェクトについての考えを文書で提出し、関係する本学教員と事前に相談するようお願いしています。これは入学後の研究指導を円滑に進めるため重要ですので必ず相談してください。なお、出願資格の③～⑧のいずれかに該当する場合、出願資格審査を行いますので、(4)～(11)の必要書類も併せて提出してください。

事前相談期間

	提出期間(必着)	事前相談期日
A日程	4月15日(火) ～5月20日(火)	4月22日(火) ～5月30日(金)
B日程	7月8日(火) ～8月6日(水)	7月15日(火) ～9月1日(月)
C日程	9月23日(火) ～10月22日(水)	10月1日(水) ～11月5日(水)
D日程	1月20日(火) ～2月5日(木)	2月2日(月) ～2月13日(金)

※各日程の期間で日程調整し、相談日を入試課から連絡します。

※4月入学以外を希望する場合は、事前相談の書類を提出する前に入試課までお問合せください。

※日本国籍を有しない者で出身国から新規に在留資格を申請する者は、入学手続後、速やかに在留資格取得手続きを行ってください。C・D日程では4月入学に間に合いませんので出願できません。

提出書類

(1) 志願理由書（本学所定の用紙）

- ・ ものづくり学研究科を志願する理由について記入してください。
- ・ 入学する希望学期を記入してください。（原則4月入学）
- ・ 志願理由書は、大学のホームページからダウンロード可能です。

(2) 学位プロジェクト計画（本学所定の用紙）

- ・ 本学大学院において学位プロジェクトとして実施したいテーマ・問題意識・プロジェクト計画等について記入してください。
- ・ 志願理由書は、大学のホームページからダウンロード可能です。

(3) 卒業（見込み）証明書（出願資格①～⑥のいずれかに該当する者）

- ・ 大学（学校）が発行したものを提出してください。
- ・ 出願資格②の者で、学士の学位を授与された者は、大学改革支援・学位授与機構が発行した学位授与証明書を提出し、学士の学位を授与される見込みの者は、在籍学校長が発行した学位授与申請予定証明書を提出してください。
- ・ 出願資格③又は④の者は、「英語の原本」又は「原本と日本語に翻訳したもの」を提出してください。
- ・ 出願資格⑥の者は、高度専門士取得証明書も併せて提出してください。

(4) 成績証明書（出願資格③～⑥に該当する者）

- ・ 大学（学校）が発行したものを提出してください。
- ・ 大学に編入学したものは高等専門学校及び短期大学等の成績証明書も提出してください。
- ・ 出願資格③～⑤に該当する場合、「英語の原本」又は「原本と日本語に翻訳したもの」を提出してください。

※（５）～（８）は、外国人留学生のみ提出

(5) 在留カード、パスポート又は住民票のいずれかのコピー

- ・ 在留カードの場合は、表面と裏面をコピーしてください。
- ・ パスポートの場合は、氏名・生年月日・パスポート番号・有効期限のページが分かるようにコピーしてください。
- ・ 外国から直接出願する場合は、パスポートのコピーと戸籍抄本又は市民籍等出身国の公的機関が発行する居所証明書を提出してください。（「英語の原本」又は「原本と日本語に翻訳したもの」）

(6) 日本語能力が確認できる証明書

公益財団法人日本国際教育支援協会が実施する「日本語能力試験（N2）」の合格又は、独立行政法人日本学生支援機構が実施する「日本留学試験（日本語）」で200点以上（記述を除く）のいずれかの成績証明書又は成績が確認できる書類（日本留学試験は※参照）を添付してください。

※日本留学試験は大学側でも成績確認しますので、受験票の写し等、受験番号が分かるものも添付してください。

(7) 留学経費支弁計画および経費支弁書

2年間の支払計画を作成してください。

(8) 経費支弁能力を証明する書類（3ヶ月以内に発行されたもの）

経費支弁者名義の銀行等における預金残高証明書の写し、又は日本国内の銀行等の通帳の写し等、経費支弁能力を証明する書類を提出してください。

※入学手続納入分と第2クォータ分（8ページ）の合計金額が必要となります。

※（9）～（12）は、いずれかに該当する者のみ提出

- （9）出願資格審査申請書（本学所定の用紙）（出願資格③④⑤⑥⑦⑧に該当する者）
- （10）最終学校の成績証明書（出願資格⑦⑧に該当する者）
- （11）最終学校の卒業証明書（出願資格⑦⑧に該当する者）
- （12）大学卒業と同等の学力を有することを証明する書類（出願資格⑧に該当する者）
（職歴・研修歴・研究歴等実務経験及び実績を証明する書類）

（注）受付後の提出書類の返却及び変更は認めません。 ※事前相談には審査料はかかりません。

提出方法

提出書類を本学所定の「大学院事前相談書類在中」と記した封筒に入れ、簡易書留速達で郵送してください。提出書類は不備がないよう、再度確認してください。

結果

事前相談の結果による出願許可の可否は、口頭または郵便にて通知します。
なお、出願を許可した者には、出願書類一式を配布または送付します。

入学者選抜試験

試験内容

- | | | |
|--------|---|---|
| 能力判定試験 | { | ・ 小論文 |
| 適性判定試験 | | ・ これまでの実績と学位プロジェクトについてプレゼンテーション
・ 小論文及びプレゼンテーションに基づく口頭試問
・ 面接 |

試験日程

	出願期間	試験日	合格発表日	入学手続期間
A日程	5月30日(金) ～6月16日(月)	7月2日(水)	7月10日(木)	7月10日(木) ～7月25日(金)
B日程	8月18日(月) ～9月4日(木)	9月17日(水)	10月1日(水)	10月1日(水) ～10月23日(木)
C日程	10月31日(金) ～11月17日(月)	12月3日(水)	12月18日(木)	12月18日(木) ～1月15日(木)
D日程	2月2日(月) ～2月13日(金)	3月3日(火)	3月12日(木)	3月12日(木) ～3月20日(金)

※日本国籍を有しない者で出身国から新規に在留資格を申請する者は、入学手続後、速やかに在留資格取得手続きを行ってください。C・D日程では4月入学に間に合いませんので出願できません。

※4月入学以外を希望する場合は、事前相談の書類を提出する前に入試課までお問合せください。

※4月入学以外の場合は、入学準備の関係で入学手続きが異なる場合があります。ご了承ください。

試験時間

受験票C票裏面に集合時間を指定して郵送します。
余裕をもって試験会場にお集まりください。

試験会場

ものづくり大学
住 所 埼玉県行田市前谷333番地
集合場所 大学本部

出願書類

(1) 願書(本学所定の用紙) ※事前相談を終了した者に郵送します。

「ものづくり大学大学院ものづくり学研究科」入学志願票(A票)、写真票(B票)、受験票(C票)、入学検定料領収書(D票)、入学検定料振込み依頼書(E票)の必要事項を記入例にしたがって正確に記入してください。C票には速達による郵送に必要な切手(385円分)を貼り、A、B、C票を切り離さず提出してください。

(2) 写真2枚(縦4cm×横3cm)

上半身・正面・脱帽・背景無地で、3ヶ月以内に撮影したもの(白黒可、インスタント・スナップ写真不可)を、A票、B票の所定欄に貼付してください。写真の裏面には氏名を記入してください。

(3) 成績証明書(出願資格①②の場合、提出)(出願資格③④⑤⑥⑦⑧に該当する者は不要)

- ・ 大学(学校)が発行したものを提出してください。
- ・ 大学に編入学した者は、高等専門学校及び短期大学等の成績証明書も提出してください。

(4) 第三者による推薦書(既卒者は提出。ものづくり大学在学者は必要ありません。)(様式自由)

推薦者が推薦内容(受験者のものづくりに対する姿勢、実績、企業における活動状況、推薦者として受験者の将来に期待することなど)を記入し提出してください。

(5) 経歴書(本学所定の用紙) ※事前相談を終了した者に郵送します。

- ・ 書式にそって経歴等を記入してください。(高校卒業から記入してください。)

(6) 実績・業績報告書(本学所定の用紙) ※事前相談を終了した者に郵送します。

(7) 派遣承諾書(社会人派遣の場合提出)(様式自由)

(8) プレゼンテーション資料

これまでの実績と学位プロジェクトのプレゼンテーション資料を提出してください。

試験では、PC等を使用することはできません。試験当日は、自分の発表用プレゼンテーション資料を持参してください。

(注) 願書受付後の出願書類の返却及び変更は認めません。

入学検定料 30,000円

- ① 銀行から振り込んでください。郵便局、コンビニエンスストアからの振込みはできません。
- ② 振込用紙は、入学志願票など一連の綴りになっています。A票～E票を切り離さないで銀行の窓口に出してください。
- ③ 銀行ではE票が切り離され、残りの部分は返却されます。

A票及びD票に取扱銀行の収納印があることを確認してください。

D票は、入学検定料の領収書となるので、大切に保管してください。

④ 一度納入された入学検定料は一切返還しません。

⑤ 振込手数料は各自の負担とします。

※自然災害の被災により災害救助法の適用を受けた方へ

令和8年度入学試験に係る入学検定料について、災害発生から10年以内の被災者は罹災証明書（被災証明書）を出願書類とともに提出することにより、全額免除いたします。

ご不明な点がございましたら、入試課にご連絡ください。

出 願 方 法

出願書類を本学所定の「大学院ものづくり学研究科入学試験」の封筒（「出願書類在中」と表記したもの）に入れ、簡易書留速達で郵送してください。出願書類は不備がないよう、再度確認してください。

受 験 票

入学願書の受付が済み次第、受験者宛に集合時間、場所を記載した受験票（C票）を郵送します。

合 格 発 表

（1）可否の通知

- ・受験者全員に可否結果を通知します。

※通知方法は、速達で郵送します。地域によっては配達されるまでに2～3日を要する場合があります。

- ・掲示による発表は行いません。

（2）その他

- ・電話による問い合わせには一切応じません。
- ・本学では電報による可否の連絡は行いません。試験当日、下車駅や試験場周辺に私設の電報連絡業者等が出ることがありますが、本学とは一切関係がありません。

受験についての注意

- ・合格者には可否結果とあわせて入学手続書類を郵送します。

受験について

- ・受験票の発送は、出願期間終了日以降になる場合もあります。受験票が試験日間近になっても届かない場合は、本学入試課に問い合わせてください。
- ・試験会場の下見は可能としますが、建物内への入場は認めません。
- ・試験会場への受験生以外の入場は認めません。また、学内への自動車、バイク、自転車の乗り入れ、駐車はできません。
- ・受験者は指定された集合時間までに指定された場所に集合してください。
- ・受験票を紛失または試験当日忘れた場合は、必ず係員に申し出て再発行の手続きを行ってください。
- ・指定された集合時間に遅刻した者は、試験を受けることができません。ただし、試験当日の交通機関の事故、災害等やむをえない事情により、指定された集合時間に到着できない場合には、ただちに本学入試課に電話連絡し、指示を受けて下さい。
- ・昼食が必要な場合は、各自で用意してください。
- ・身体に障害のある受験者で、本学での教育を受けること及び受験の際に特別の配慮が必要と思われる

受験者は、出願前に本学入試課に連絡し、相談をしてください。

問い合わせ先：ものづくり大学入試課

住 所：〒361-0038 埼玉県行田市前谷 333 番地
T E L：048-564-3816
F A X：048-564-3201
E - M A I L：exam@iot.ac.jp

※宿泊について

受験の際の宿泊施設については、本学では斡旋しません。各自で直接ホテルあるいは旅行代理店を利用してください。

入学手続等について

- ① 所定の期間内に入学手続を完了してください。
- ② 本学を卒業または卒業見込みの者は、入学料（200,000円）を免除します。
- ③ 令和8年度入学希望者が、令和8年3月31日までに書面による入学辞退を申し出た場合には、授業料、実験実習費、施設整備費を返還します。
- ④ 卒業見込み等で受験した者が、令和8年3月31日までに卒業できなかった場合には入学資格を取り消します。

（１）授業料等納付金

納 付 金 種 別		入学手続納入分 (1クォータ分)	各学期納入分 (2、3、4クォータ分)
入 学 料	200,000円	200,000円	0円
授 業 料	480,000円	120,000円	各120,000円
実験実習費	160,000円	40,000円	各40,000円
施設整備費	160,000円	40,000円	各40,000円
計	1,000,000円	400,000円	各200,000円

ものつくり大学大学院では1年を4学期に分けるクォータ制を導入しています。

（２）長期履修制度について

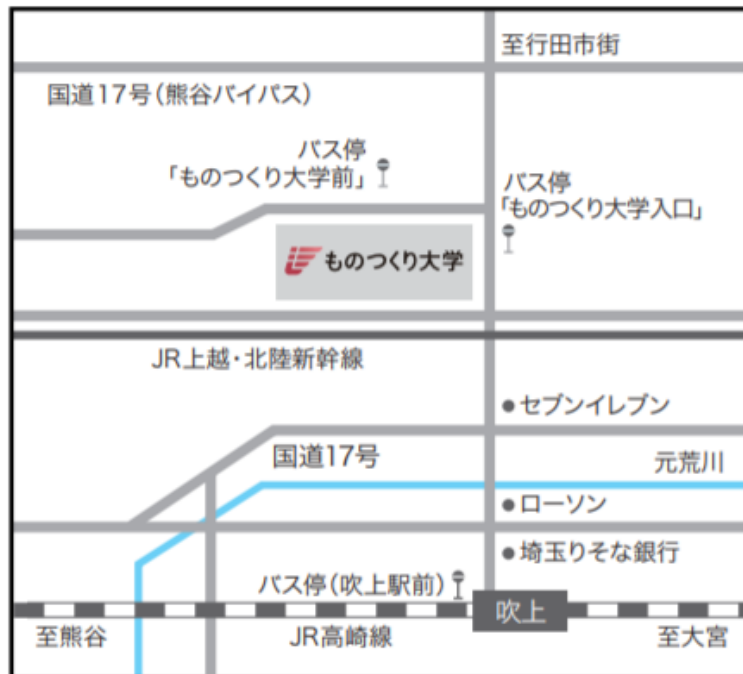
職業などを有しているなどの事情により、標準修業年限（2年）での修了が困難である事があらかじめ見込まれる場合は、標準修業年限に加えて、最長で2年間在学する事ができます。この場合の授業料は、上記授業料等の年額に標準修業年限を乗じ、その額を長期履修期間の年数で除した額とします。

（３）入寮について

- i. 入学志願票の入寮希望欄は、ドミトリ入寮の希望者を把握するためのものです。
- ii. ドミトリ入寮手続書類は、後日、入学手続書類に同封します。
- iii. ドミトリの部屋数は200室であり、希望者全員が入室できるわけではありません。希望者が多数の場合は、選考によります（1年契約）。

試験会場案内図

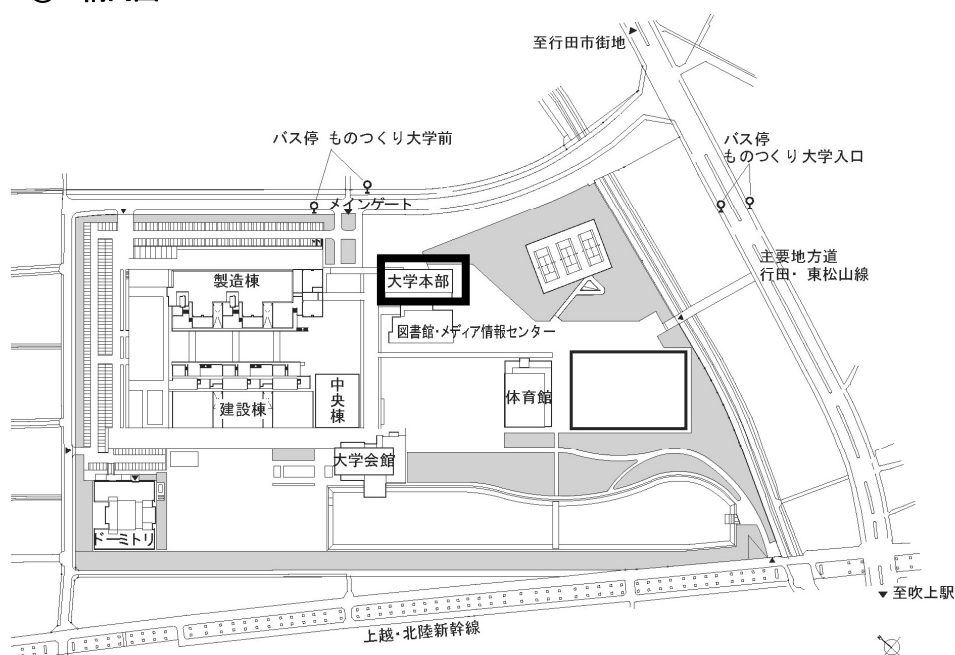
- ◆ 入学試験会場 ものづくり大学
大学本部 1 階入試課窓口で受付
〒361-0038 埼玉県行田市前谷 333 番地



① 最寄駅からのアクセス

- JR 高崎線吹上駅より
 - ・徒歩約 15 分
 - ・バス約 3 分
 - ①前谷經由「ものづくり大学前」下車
 - ②佐間經由「ものづくり大学入口」下車

② 構内図



専任教員及び研究分野一覧

教員氏名		専門分野、テーマ
荒井 豊	教授	生産性向上、管理（安全・品質・量・コスト）、組織マネジメント（組織活性化・ヒューニング）
井坂 康志	教授	ドラッカー研究、経営学、社会情報学
岡根 利光	教授	鋳造、凝固組織制御、金属材料、3D プリンター
香村 誠	教授	熱・流体工学
佐久田 茂	教授	精密機械システム、精密加工、統計解析
菅谷 諭	教授	電子光情報工学
武雄 靖	教授	機械加工、技能伝承
永井 孝	教授	教育工学、身体知獲得支援、STEAM 教育
原 薫	教授	内燃機関、アルミ押し出し加工
ビチャイ・サエチャウ	教授	パワーエレクトロニクス、制御
堀内 勉	教授	物理化学、分析化学
松本 宏行	教授	構造解析、信号解析、ユニバーサルデザイン
三井 実	教授	音響工学、感性工学、信号処理
山口 裕之	教授	レーダ信号処理、航法・誘導制御
石本 祐一	准教授	音声情報処理、音声コミュニケーション分析
上原 健嗣	准教授	データサイエンス、数理モデル化、航空管制システム
平野 聡	准教授	溶接・接合、材料創生、産業ロボット応用
牧山 高大	准教授	塑性加工学
町田 由徳	准教授	プロダクト・デザイン
土井 香乙里	講師	社会言語学、英語教育
細合 晋太郎	講師	ソフトウェア工学、ロボットシステム
今井 弘	教授	建築設計・技術・工法
大垣 賀津雄	教授	建設鋼構造、複合構造
大塚 秀三	教授	建築材料・施工
岡田 公彦	教授	建築計画・設計・意匠
佐々木 昌孝	教授	建築史、技術史
澤本 武博	教授	建設材料・施工
高橋 宏樹	教授	建設材料・施工
田尻 要	教授	建設計画
戸田 都生男	教授	建築環境心理、建築計画
土居 浩	教授	モノ研究、生活学
松岡 大介	教授	建築環境工学、建築設備
間藤 早太	教授	建築構造計画
三原 斉	教授	建設経済、建築生産、建築構法
横山 晋一	教授	日本建築史、文化財保存修復
荒巻 卓見	講師	建設材料・施工、コンクリート工学
大竹 由夏	講師	建築計画、都市計画
芝沼 建太	講師	木質構造・材料
奥崎 優	助教	建築生産史

※ 2025 年 4 月 1 日現在

※修士学位プロジェクト指導教員は、入学希望者に対する事前相談及び入学者選抜の結果に基づいて決定します。

Ⅲ-1. 授業科目一覧

授 業 科 目 の 名 称		配当年次	クォータ	単 位 数			備 考
				必 修	選択必修	選 択	
専 門 講 義 系 科 目 群	コンピュータ援用技術特論	1・2	1			1	
	精密機器設計における先進技術	1・2	3			1	
	精密機器製造における先進技術	1・2	4			1	
	ものづくり社会基盤	1・2	1			1	
	建築環境工学特論 ※1	1・2	2			1	
	建築計画特論 ※1	1・2	2			1	
	設備技術特論	1・2	2			1	
	インテリア特論 ※2	1・2	2			1	
	建築史特論 ※2	1・2	3			1	
	都市計画特論 ※1	1・2	3			1	
	鋼構造設計特論	1・2	4			1	
専 門 実 習 ・ 演 習 系 科 目 群	モデル駆動開発概論および実習 ※3	1・2	1			1.5	※1 建築士指定科目
	高機能化技術1および実習 ※3	1・2	1			1.5	
	ものづくり情報活用および演習	1・2	1			2	
	溶融加工技術特論および実習	1・2	3			1.5	※2 建設修復関連科目 ⇒建築物の修復について深く学ぶための科目
	先進塑性加工技術および実習	1・2	3			1.5	
	機械加工技術特論および実習	1・2	3			1.5	
	情報解析学特論および実習	1・2	4			1.5	※3 隔年開講科目
	維持保全技術および演習 ※2	1・2	1			2	
	保存・修復技術および演習 ※2	1・2	1			2	
	先端構造技術および演習 ※1	1・2	2			2	
	伝統構造技術および演習 ※2	1・2	2			2	
	先端材料技術および演習 ※1	1・2	3			2	
	保全・活用技術および演習 ※2	1・2	3			2	
	先端施工管理技術および演習 ※1	1・2	4			2	
	スタジオインターンシップ（建築士） ※1	1	4			8	
	インターンシップⅠ（建築士） ※1	2	1			8	
	インターンシップⅡ（建築士） ※1	2	2			8	
	インターンシップⅠ（一般） ※2	1・2	全期間			8	
	インターンシップⅡ（一般） ※2	1・2	全期間			8	
共 通 講 義 ・ 演 習 系 科 目	Druckerイノベーション特論	1・2	1		1*		*印の科目のうちから4 単位以上を修得すること
	現代世界解析講座（インターネット、1・2Q通し）	1・2	1・2		2*		
	Druckerマーケティング特論	1・2	2		1*		
	ものづくりデザイン	1・2	2		1*		
	ものづくりシステム	1・2	2		1*		
	デジタルファブリケーション特論	1・2	2		1*		
	もの・ひと協調	1・2	2		1*		
	プロポーザル技法および演習	1・2	3		2*		
	SDGs特論	1・2	4		1*		
	ものづくり経営事例研究	1・2	3		2*		
	ものづくり学基礎論	1・2	1		1*		
	Research and Presentation for Technologists	1・2	4		1*		
もの つくり プ ロ ジ ェ ク ト 科 目 群	もの つくり プ ロ ジ ェ ク ト 実 習	ものづくりプロジェクト実習1	1	1		2**	**印の科目のうちから4 単位以上を修得すること
		ものづくりプロジェクト実習2	1	2		2**	
		ものづくりプロジェクト実習3	1	3		2**	
		ものづくりプロジェクト実習4	1	4		2**	
		ものづくりプロジェクト実習5	2	1		2**	
		ものづくりプロジェクト実習6	2	2		2**	
	題 く も の つ り 課 題 研 究	ものづくり課題研究1	2	3		2**	
		ものづくり課題研究2	2	4		2**	